

会社員が消える

働き方の未来図

定価 ¥880+税

大内伸哉（神戸大大学院法学研究科教授）著

●第4次産業革命でビジネスが変わる

→あらゆる情報がデータ化され、それをAIが分析。そこからフィンテック、ヘルステック、自動運転など、革新的なサービス・製品が登場する。

→ビジネスモデルの更新が速くなる

●大企業が減少

→短いスパンでビジネスモデルが変動するので、ひとつの企業が多角化・拡大するより、分野ごとに専門集団と連携するほうが効率的で、変化への対応が可能。

→企業は、継続性重視から、スペシャリストを一定期間だけ集めるプロジェクト遂行型の組織へ。

●技術革新が働き方を変える

→定型作業はAIが担うので、人間に残された仕事は、人間にしかできない創造的で独創的なものに。

→求められるスキルが明確になるのでスペシャリスト型のニーズが拡大。

●日本型雇用が崩壊する

→ビジネスモデルの予測が難しいので、企業は社員に求めるスキルも予測できなくなり、長期の雇用を通じた人材の育成が困難に。人材は「つくる」から「買う」へ。

●雇用型から独立型へと働き方が革命的に変わる

→企業が雇用を減らす上に、スペシャリスト型のニーズが拡大。

→企業に所属せず、専門的スキルを提供するフリー型の働き方が主流に。デジタル技術の発展により、企業と働き手のマッチングも簡単（取引コストの減少）。

●働く環境が激変

→ICTの発達で会社に来る必要性が薄くなり、勤務地や勤務時間帯にしばられない働き方が可能に。

→フリー型の増加を促す。

雇用が減り、フリー型が増加する未来は悪夢なのか？

それとも企業の拘束から解放される望ましい社会なのか？

労働法の第一人者が描き出す、未来の働き方と私たちの課題。

お問い合わせ先：文藝春秋 宣伝プロモーション部
電話 03-3288-6142 メール pr@bunshun.co.jp